

スイッチオーバー後、リバースレプリケーションを開始するまでの手順

フェーズ1: スwitchオーバー発生

ドメイン環境

Step1: マスタをネットワークから外す



Step2: マスタを復旧

フェーズ2: マスタの非アクティブ化

ドメイン環境



Step3: マスタをドメインから外す

Step4: マスタのコンピュータ名に「-RHA」を付ける

フェーズ3: マスタの復帰

ドメイン環境

Step5: マスタをネットワークに接続する



Step6: マスタをドメインに参加させる

Step7: リバースレプリケーションの開始

マスタサーバをネットワークに再接続し、
Active Directory ドメインに再参加させます。(※)

その後、シナリオを再開します。

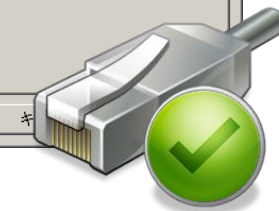
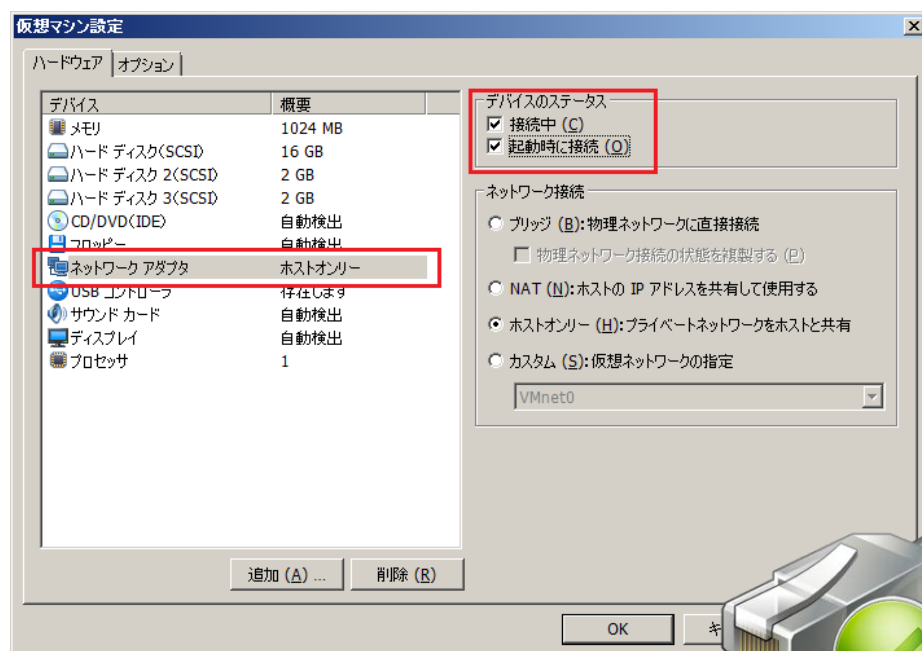
※ 課題6で、マスタサーバをドメインから外しているため、シナリオを再開する前に、ドメインに再参加させる必要があります。

ドメイン再参加とシナリオの開始

マスタサーバ再起動後、マスタサーバにAdministratorでログオンします。その後、VMware Workstationのメニューより[VM] - [設定] をクリックして設定画面を開き、[ネットワーク アダプタ] 画面で「接続中」、「起動時に接続」にチェックを入れます。



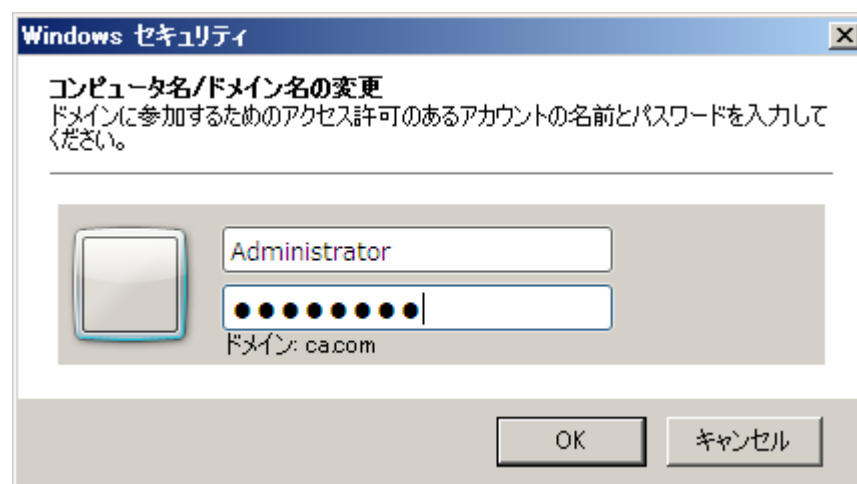
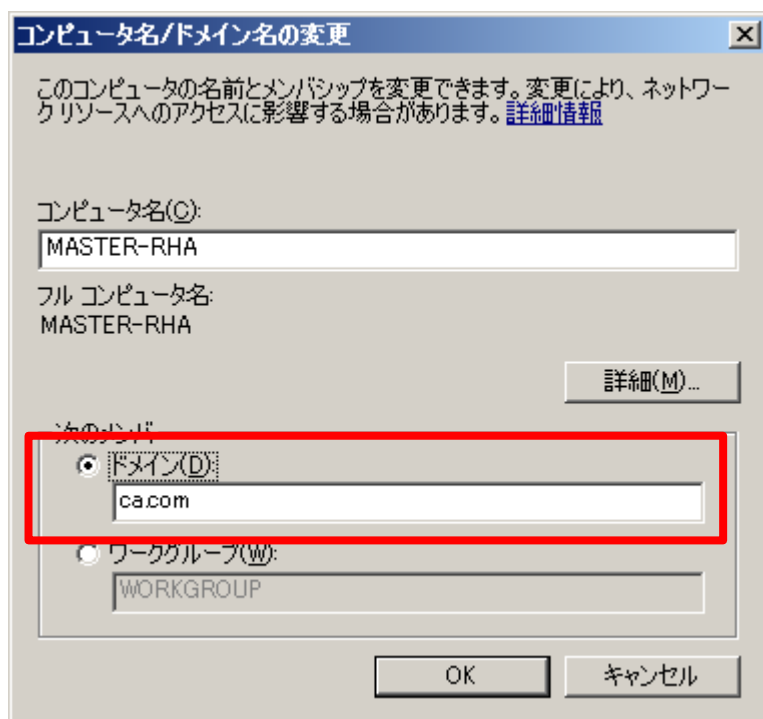
マウスカーソルをモニタの最上部まで移動し隠れているVMware Workstation のメニューを表示してください



ネットワーク接続中

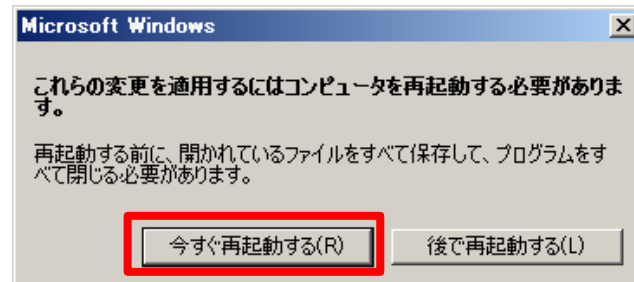
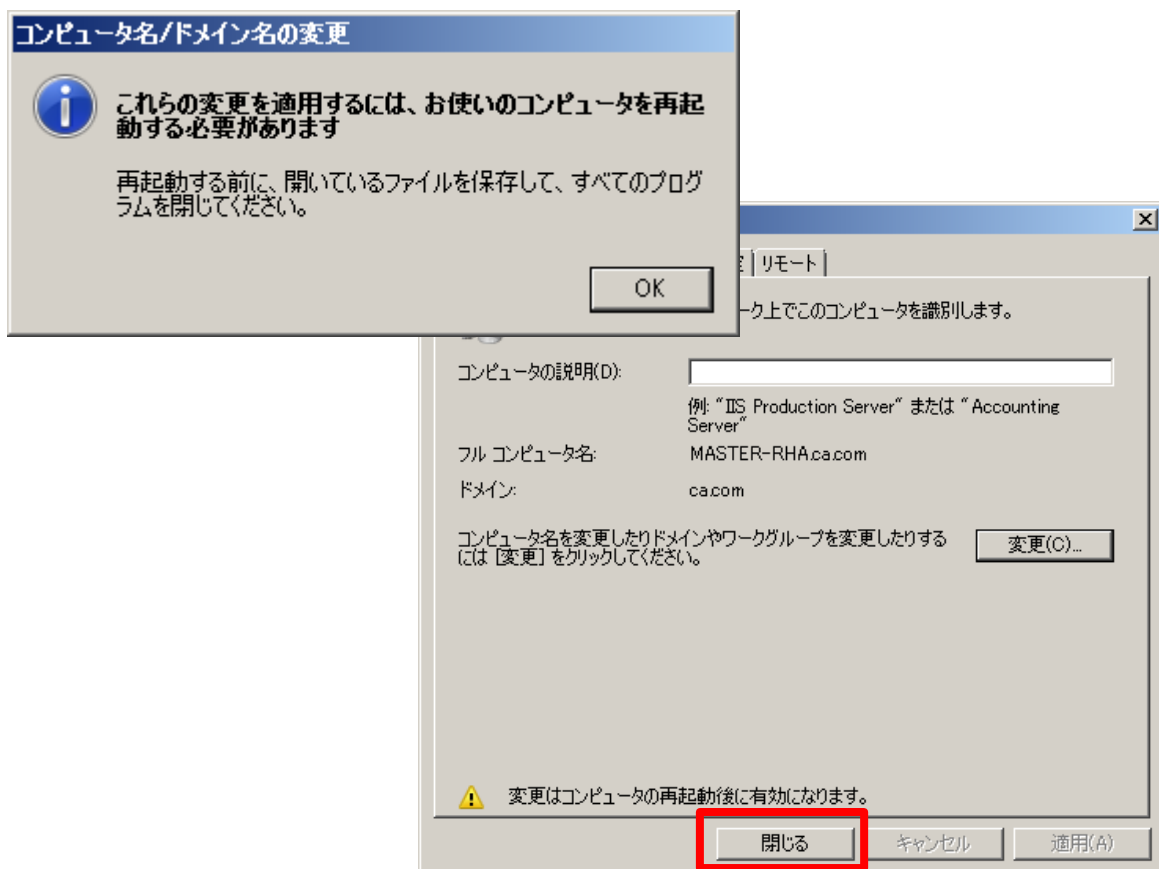
ドメイン再参加とシナリオの開始

ネットワークに接続した後、マスタサーバをドメイン (ca.com) に参加させます。



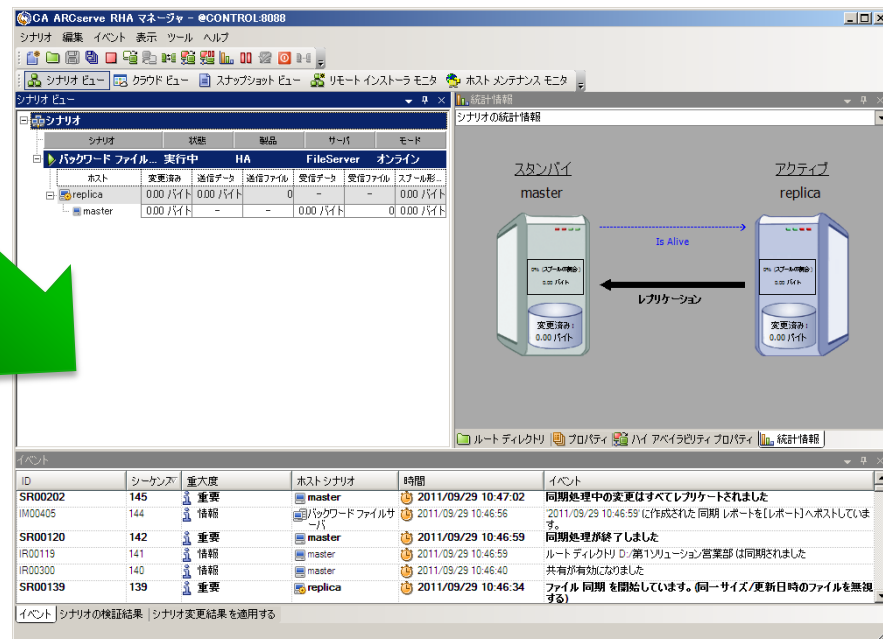
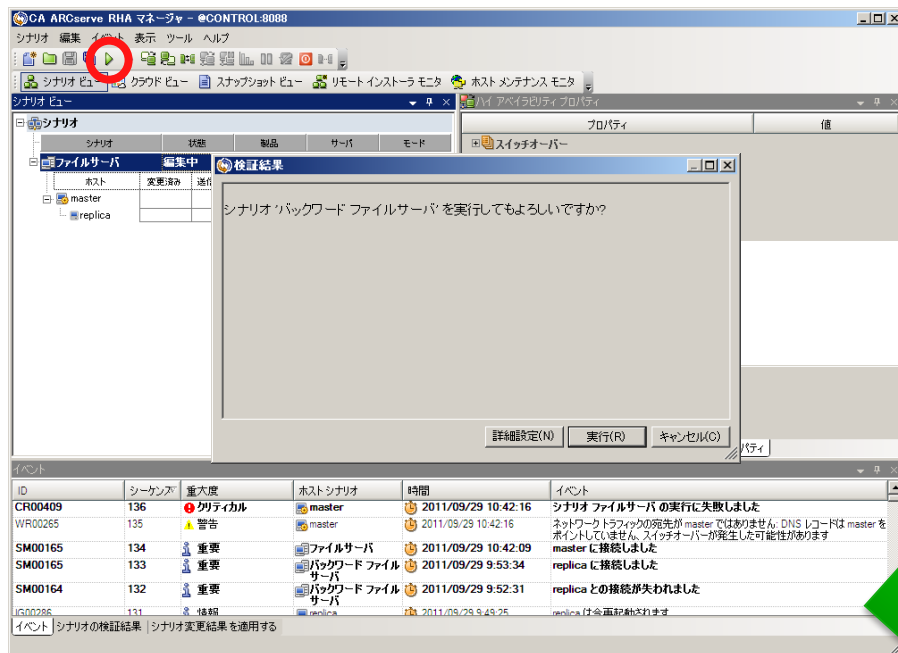
ドメイン再参加とシナリオの開始

すべての画面を閉じ、マスタサーバを再起動します。



ドメイン再参加とシナリオの開始

マスタサーバが再起動したら、シナリオを実行します



Point

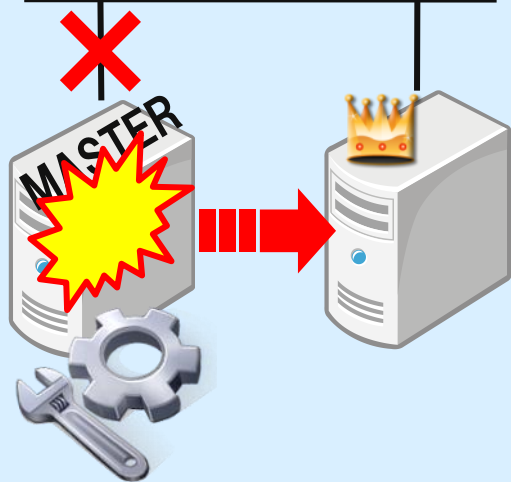
重大度: クリティカルで「シナリオ ファイルサーバの実行に失敗しました」というイベントが表示されていますが、スイッチオーバー後にマスタから発信されたメッセージですので正常な動きです。

スイッチオーバー後、リバーシレプリケーションを開始するまでの手順

フェーズ1: スwitchオーバー発生

ドメイン環境

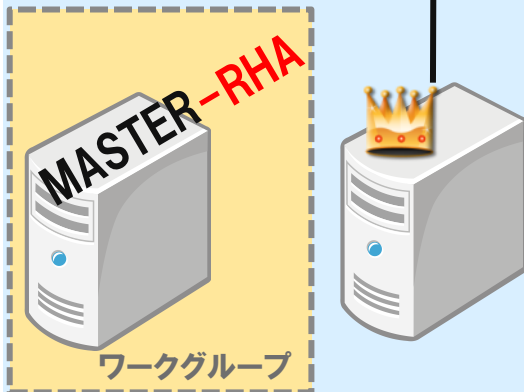
Step1: マスタをネットワークから外す



Step2: マスタを復旧

フェーズ2: マスタの非アクティブ化

ドメイン環境



Step3: マスタをドメインから外す

Step4: マスタコンピュータ名に「-RHA」を付ける

フェーズ3: マスタの復帰

ドメイン環境

Step5: マスタをネットワークに接続する



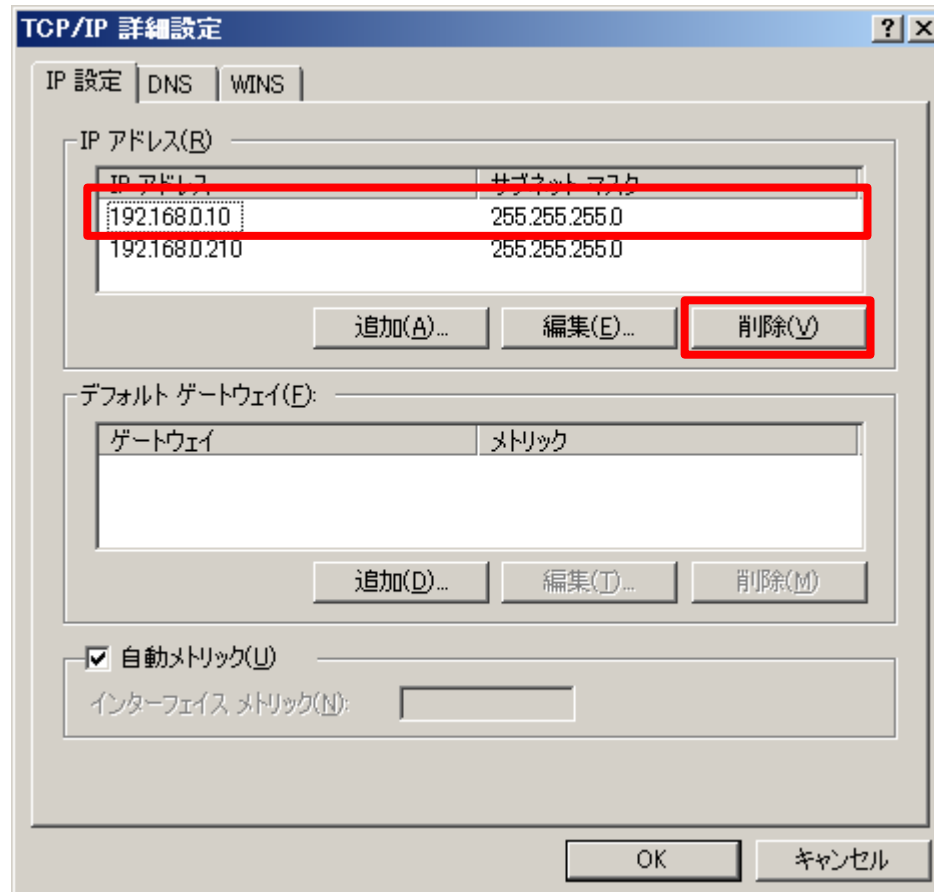
Step6: マスタをドメインに参加させる

Step7: リバーシレプリケーションの開始

<参考> IP移動リダイレクション利用時の非アクティブ化

Step1: IPアドレスの競合を防ぐため、ネットワークから外します。

Step2: マスタサーバのNICから実運用IPアドレスを削除します



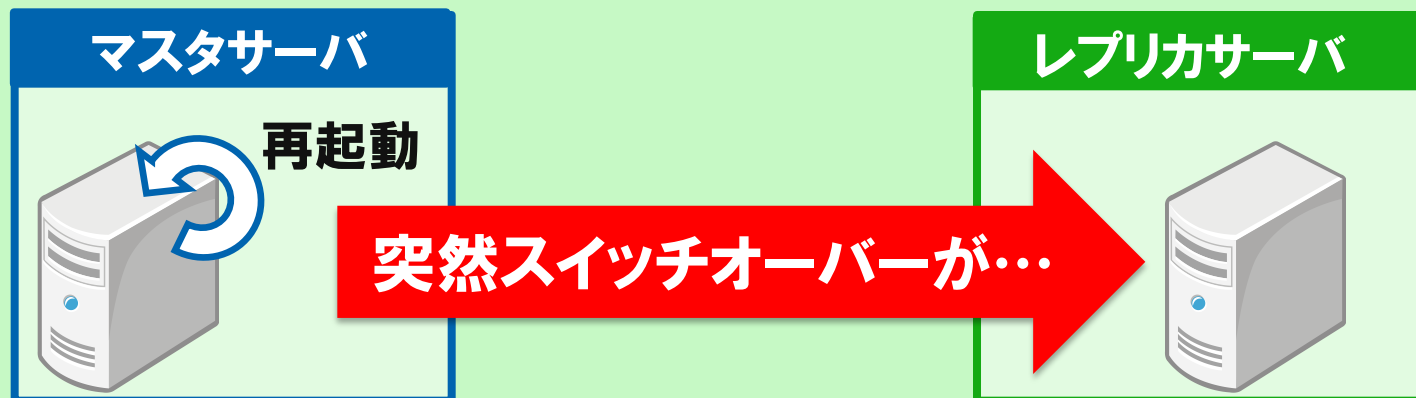
<参考事例> 勝手にスイッチオーバーしてしまった！

From: CA パブリッシャーズ

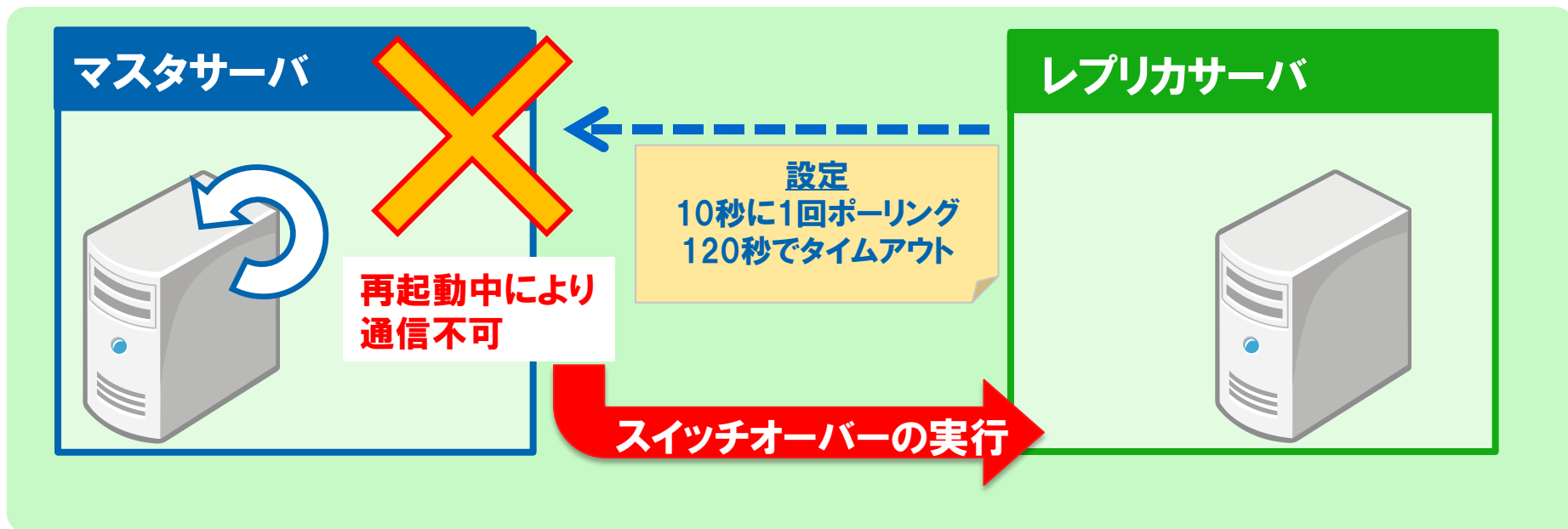
件名: マスタサーバを再起動したらスイッチオーバーが始まった…

マスタサーバにOSパッチの適用が終わり、再起動を求められました。通常5分程度で再起動できるサーバなのであまり気にせず実行しました。しかし、しばらくするとコントロールサービスから送信されたEメールの中にスイッチオーバーに成功した旨のメッセージがありました。マネージャで確認してもスイッチオーバーが実行されているようです。何故このようなことが起こったのか、原因を教えてください。

<障害の概要>



原因: Is Alive のタイムアウト値が短すぎたため



この事例の管理者は、障害が起こったらすぐさまスウィッチオーバーが実行されることを望んでいたため、ハートビート周期とIs Alive チェックのタイムアウト値を短く設定していました。しかし再起動にかかる時間は考慮しておらず、また再起動の際にホストメンテナンス機能を使用していませんでした。そのため、再起動中にIs Alive チェックがタイムアウトし、自動スウィッチオーバーが実行されました。

また、マスターサーバの起動したタイミングによっては製品がどちらがアクティブか判断できないことがあります。その際、どちらも非アクティブ化される場合があります。

この事例から学ぶ教訓 ～3つのポイント～

Point 1

Is Alive Checkのタイムアウト値は短くしすぎない！

自動スイッチオーバーを選択している場合、タイムアウト値を短くしすぎると、数分のネットワークの切断やサーバの再起動などによってもスイッチオーバーが開始してしまうことがあります。タイムアウト値は不必要に短くするのを避けるか、もしくは手動スイッチオーバーを選択してください。

Point 2

非アクティブ化を実施してからネットワークに接続する

特にサーバの障害が原因で自動スイッチオーバーが行われた場合、サーバの非アクティブ化が実施されていない可能性があります。必ず非アクティブ化を実施してからネットワークに接続してください。（アプリケーションの場合にはサービスも停止します。）

Point 3

再起動を行う際はホストメンテナンス機能を利用する

サーバを再起動する際は、必ずホストメンテナンス機能を利用してください。ホストメンテナンスを利用することで、スイッチオーバーは実行されず安全にサーバを再起動できます。また、不必要な同期処理も回避することができます。